



熊本再春荘病院医療連携室だより



再春

平成30年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春荘病院
編集：医療連携室

KUMAMOTO SAISHUNSO NATIONAL HOSPITAL

熊本再春荘病院ホームページ <http://www.k-saisyunsou.jp/>



当院入院中のI様から最新作のCGを戴きました。I様、いつも大変有り難うございます。御興来(おこしき)海岸は、宇土半島の北側に位置する穏やかな海岸で、「日本の渚百選」に選定されています。今回のCGでは、まるで彫刻のような雄大な砂紋が見事に描かれていて、感動的です。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

1. 院長あいさつ	2
2. 新サービス棟完成	3
3. 診療科紹介【麻酔科】	4
4. 開放型病院登録医紹介【かたやま内科・漢方クリニック】	4
5. 禁煙治療セミナー報告	5
6. 菊池救急医療研修会報告	5
7. 健康フェスティバル報告	6
8. 熊本再春荘病院学会報告	7
9. 国立病院総合医学会	8
10. 看看・看介連携の活動報告	8
11. ファミリー参観報告	9
12. 少年少女俳句会報告	9
13. 新任職員紹介	10
14. 新任医師紹介	10

地域医療への更なる貢献

病院長 米村 憲輔

異常気象が話題に上るようになってからだいぶ経ちますが、昨今は一段と激しさを増しているようです。7月には九州北部豪雨が甚大な被害をもたらしました。これはこれまでにない短時間の集中豪雨によって発生しました。また10月に発生した台風21号は、超大型を維持したまま静岡県に上陸しましたし、2年連続での台風北海道上陸もありました。さらに近海でとれる魚の漁獲高の減少や種類の変化などは、異常気象による海洋環境の変化も一因と云われています。今後もこのような異常が年々増幅されると大変なことになりそうで心配です。

いっぼう医療界を取り巻く環境も一段と厳しさを増しそうです。平成30年4月には診療ならびに介護報酬の同時改定、さらに第7次医療計画開始などが控えています。超高齢社会における医療・介護の提供体制の継続を目指すための方策を策定する中で、医療費がどう扱われるのか注目していく必要があります。

周囲環境の変化はどうかあれ、当院は今後も救急・急性期医療とともに従来からの政策医療（重症心身障害、筋ジストロフィーをはじめとする神経筋難病）の提供を維持しつつ、いっそう質の高い地域医療の提供を目指す所存です。また熊本県北地域の基幹病院として、今後構築の進む地域包括ケアシステムにおける連携を支える一員としての役割も果たしてまいります。皆様には今後とも変わらぬご厚誼ならびにご支援賜りますようお願い申し上げます。

新病棟建設については、夏に第1期工事が終わり新サービス棟が完成、10月から運用を開始致しました。現在は、いよいよ新外来および病棟建設に着工しております。完成は約2年後の見込みであり、その間工事車両の往来や敷地内の交通制限で、地域住民の皆様や患者様には大変ご迷惑をお掛け致します。重ねてご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。

新サービス棟完成（第Ⅰ期工事分）

企画課長 古川 孝明

新病院建設工事は第Ⅰ期から第Ⅲ期までの約4年間の工事の予定で進めております。

平成28年11月から第Ⅰ期工事を開始し、約9ヶ月をかけて平成29年8月末に第Ⅰ期工事である新サービス棟が予定どおり完成しました。

新サービス棟は鉄骨造りで一部2階建立となっており延べ床面積は、2,084㎡となっております。

建物内には1階部分には栄養管理室、洗濯室及び霊安・解剖室、2階部分には中央監視室の配置となっております。

完成後は、部分竣工検査、医療法検査等の各種の検査が行われました。

同時に新厨房及び洗濯室内には機器等の設置、引越作業等を行い平成29年9月末から本格的に共用

を開始しました。

特に新栄養管理室は、より衛生的で快適な作業環境となり患者様に美味しい食事提供を行えるようになりました。

また、新中央監視室内には非常時に対応出来るように防災用と保安用の2台の発電機を備えました。

今回の工事で先の熊本地震の教訓から新サービスヤードには新たに地下水濾過膜システムも導入し災害等にも対応出来るようにしております。

さて、平成28年10月中旬頃からは第Ⅱ期工事である新本館棟（病棟、外来を含む）の建設に着手しており、平成31年9月オープンを目指して進めております。



新厨房内の機器等の設置状況



新洗濯室内に洗濯機等の設置の状況



新栄養管理室内へ引越作業



新サービス棟外観

麻酔科のご案内

麻酔科部長
柴田 義浩

当院では1年間に約900例の手術がおこなわれていますが、局所麻酔を除くすべての麻酔を3名の麻酔科医師（全員が麻酔科専門医）が担当します。周術期に合併症を併発することなく安全に手術がおこなえる環境を整えることは麻酔科医師の使命ですが、さらに、県内ではいち早くとり入れたエコー併用下神経ブロックや硬膜外麻酔等、術後鎮痛を意識した麻酔法を積極的に併用し、患者様が快適に周術期を過ごしていただけるような麻酔を目指しています。当院は、県北、特に菊池医療圏では数少ない麻酔科専門医が常勤している医療施設です。外科、整形外科の手術の際には、ぜひ当院を選んでいただければ幸いです。



開放型病院登録医紹介

かたやま内科・漢方クリニック

院長/片山 功夫

熊本県合志市御代志2037-3

TEL 096-273-6960 FAX 096-273-6961

診療内容/内科、代謝内科、アレルギー科、漢方内科

診療時間/ 9:00~12:30

14:00~18:00



診察日	月	火	水	木	金	土	日
9時~12時30分	○	○	/	○	○	○	/
14時~18時	○	○	/	○	○	○	/

【休診日】水曜、日曜、祝日

かたやま内科・漢方クリニック 片山院長先生には、平成25年5月より当院開放型病院登録医として、呼吸器科、整形外科、をはじめ、循環器科、神経内科など数多くの患者さまをご紹介いただいております。合志市内を中心に、菊池地域の多くの患者さまの医療に貢献されています。



『禁煙治療セミナー』の開催について

副院長 上山 秀嗣

当院は平成19年4月より病院敷地内全面禁煙となっており、呼吸器内科医による禁煙外来も行われているのですが、これまで職員向けの禁煙の啓蒙活動が成されていませんでした。また、平成29年6月の職員の喫煙率調査では男性25.2%、女性6.3%、合計10.4%と男性の喫煙率が高い状況でした。

そこで、職員の禁煙啓蒙活動のために、平成29年9月13日(水)18時より、当院多目的ホールにおいて、職員向けの「禁煙治療セミナー」を開催しました。講演はまず、日本禁煙学会のゆるキャラである‘スワンケン’の登場から始まりました。次に、日本禁煙学会熊本県支部長、くまもと禁煙推進フォーラム理事長を併任されている熊本市市民病院神経内科・主席診療部長の橋本洋一郎先生による『医師による禁煙支援－健康寿命の延伸のための5Aアプローチ』というテーマで講演がありました。先生は脳卒中の専門家として余りにもご高名ですが、実は禁煙活動も非常にご熱心です。いつものように多くのスライドを使用されて、わかりやすく、かつインパクトのある講演に全員熱心に傾聴していまし

た。また、多数の資料、パンフレットも持参して頂きました。次に、熊本機能病院看護師でくまもと禁煙推進フォーラム理事をされている藤本恵子先生より『看護師による禁煙支援－行動変容ステージモデルの活用－』というテーマで講演があり、禁煙支援のコツを伝授してもらいました。

今回の禁煙治療セミナーには職員54名が参加しましたが、この講演会を契機として非喫煙者が喫煙者の禁煙を援助する活動を開始できれば良いと思いました。



菊池救急医療研修会の開催について

経営企画室長 中川 浩介

菊池救急医療研修会は、菊池地域医療圏における救急医療の向上及び救急医療関係機関の連携を高めることを目的として開催され、平成25年度よりはじまり、今年度も6月(第12回)と9月(第13回)、および12月(第14回)に開催されました。当研修会の参加は地域の救急告示病院(川口病院、岸病院、菊池中央病院、菊池郡市医師会立病院、熊本セントラル病院、熊本リハビリテーション病院、菊陽台病院、熊本再春荘病院)、菊池郡市医師会、菊池広域連合消防本部、菊池保健所を主な参加対象医療機関としていますが、左記以外の医療機関からも多数の参加があるところです。第12回は症例検討として、川口病院院長の「近年の災害医療と平成28年熊本地震」、当院呼吸器内科中嶋医師の「一過性の胸痛後に左下肢のしびれが出現し、緊急手術にて救命しえた一例」で発表があり、参加者は83名でした。また、第13回は熊本赤十字病院救急科加藤陽一副部長をお招きしての特別講演で、「救急医療今昔」として救急医療の歴史や蘇生についてわかりやすくお話がありました。またヘリを用いた救急医療の現場が動画で紹介され、普段は見ることの出来ないヘリ救急現場の臨場感に、聴講した皆さんの関心が寄せられているようでした。(参加53名)。それぞれの発表後は白熱した質疑もあり盛会のうちに終わることが出来ました。今後も定期的で開催していく予定ですので、皆様の積極的なご参加をお願いします。

第15回 健康フェスティバル

管理課長 國分 克典



総合受付

平成 29 年 10 月 1 日(日) 9 時 45 分、制服となったポロシャツ姿の職員が旧機能訓練棟に集合し、開会式が執り行われ「第 15 回

健康フェスティバル」が開会しました。

健康講座が始まる 10 時ごろには多目的ホールに百名を超える受講者が集まり、最終的な来場者は 226 名にのぼり、大盛況となりました。

11 時からは健康測定、健康相談、実演・体験コーナー、キッズコーナー、綿菓子・ポップコーンコーナーと催しがあり大勢の人が参加、体験されました。毎年、混雑する骨密度測定では、最後尾の案内や混雑を解消するため椅子を横に並べたりとスタッフの努力が実り、スムーズに測定が進み好評でしたが、中にはどの列がどの測定コーナーの列なのか混乱する一幕もあり、次回への課題となりました。血圧測定や酸素飽和度測定など、すべての測定が終わるころには判定コーナーに長蛇の列ができましたが、判定に参加された先生方はわかりやすく丁寧に

対応されていました。

ご来場いただいたみなさまには、受付時にアンケート用紙を配布しました。昨年の配布枚数をもとに準備していましたが、急遽追加せざるを得ないほどで、積極的に、興味をもっていただいていることがうかがえました。

アンケートへのご意見として、測定コーナーや相談コーナーがあることに喜んでいただいたご意見が多かった反面、測定コーナーの待ち時間や混雑にご不満のお声もいただき、今後もより一層の工夫が必要と感じました。

また、毎年ご参加いただいているとのご意見や、この健康フェスティバルでご自身の健康状態を知り健康維持に活用されているとのご意見もあり、これからも地域に根ざした、地域のためのイベントとして開催していく意義を深く感じました。

最後に、前日及び当日朝からの準備と後片付けにご協力していただきました、職員、実行委員の皆様大変お疲れ様でした。今後もよりよい健康フェスティバルを行って行きたいと思っておりますので、来年もよろしく願いいたします。

病院建替工事の進捗状況

上山副院長



実演・体験コーナー

見て!触って!AED 重心動揺コーナー



キッズコーナー



「いつのまにか骨折」に要注意
川谷整形外科医長

健康相談コーナー
栄養相談



健康相談コーナー

測定コーナー 血糖測定



第3回 熊本再春荘病院学会

管理課長 國分 克典

第3回目となる「熊本再春荘病院学会」を平成29年10月14日(土)に開催しました。

今回は6月から運営委員会を開催し、11月の国立病院総合医学会の予行を兼ねる計画で10月開催を目指し準備をはじめました。

今回は、「地域医療の最適化～持てる資源の最大活用～」をテーマに、1演題あたり10分とし募集をはじめ、最終的には口演12題、ポスター発表6題の計18題の応募となりました。

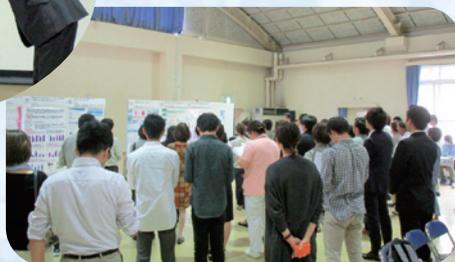
学会当日は発表者を含め109名の職員が参加し、それぞれの発表後は質疑応答や意見交換が活発に交わされ、職員ひとりひとりが日頃から精力的に業務に取り組んでいる様子を知る良い機会となりました。発表された職員

のみなさま、ありがとうございました。

発表終了後、参加者全員による投票の結果、1位に中村診療放射線技師による「一般撮影における診断線量の検証と低減への取り組み」が、2位には尾池栄養士による「病棟に季節を届けるつくしスペシャルランチ」が、そして3位には廣田臨床工学技士による「ME 機器管理システム導入に伴う業務の拡張と今後の展望」がそれぞれ選ばれました。

表彰式では上位3名の方に大会会長から表彰状と豪華な副賞が渡され、会場の参加者から大きな喝采を浴びていました。

次回も多くの職員のみなさまのご参加と、多数の演題をお待ちしています。



第71回国立病院総合医学会(高松市)

		部署・病棟	演 題 名	発表形式	セッション名
11/10(金)	1日目	石崎 雅俊	熊本県難病拠点2病院における ALS のケアに関する看護師の意識調査	eポスター	神経・筋疾患 (筋ジストロフィー) 3
		東3 野内万理子	病棟看護師の服薬管理能力に関する実態調査-内服の自己管理に焦点を当て-	eポスター	その他看護総合看護業務
		放射線科 中村 彰悟	一般撮影における診断線量の検証と低減への取り組み	eポスター	放射線診断・画像診断被ばく管理
11/11(土)	2日目	東4 丸山さとみ	夫婦で入院中の患者へカルガリー式家族看護モデルを活用した効果	eポスター	看護技術・看護記録 1
		柴田 義浩	大腿骨骨折手術の麻酔～重症心不全合併患者の麻酔経験からの考察～	eポスター	骨・運動器・リウマチ 運動器 大腿骨近位部骨折・看護
		三角 郁夫	先天性心膜欠損症に僧房弁流入三相波を認めた一例	eポスター ポスター賞受賞	循環器疾患 2
		前田 寧	骨髄間葉系細胞が発現する CXCL12、osteopontin は、骨格筋幹細胞である筋衛星細胞や再生芽細胞に作用し筋再生を促進する	口演	神経・筋疾患 (筋ジストロフィー) 3
		検査科 川上 洋子	当院におけるカンジダ属の薬剤感受性について	口演	免疫・感染症-1 エイズ その他
		森 俊輔	重篤な腎不全を合併する関節リウマチ患者に対する薬物治療:14例のケースシリーズ研究	口演	骨・運動器・リウマチ RA その他
		児童指導員 吉岡侑希子	重症心身障害者の社会性・言語に関する30年に及ぶ経年変化の遠城寺式乳幼児分析的発達検査による分析	eポスター	重症心身障害 12
西2 名越 誠	手術を受ける患者に対する術後せん妄の予防的介入の効果の検討	eポスター	その他看護総合 身体拘束・せん妄・褥瘡		
OP 淵田慶一郎	男性看護師が抱く思いを明らかにして-職務満足度の向上をめざして-	eポスター	看護管理・看護業務・看護方式 看護体制 看護管理 4		

看看・看介連携の活動報告 No.3

—熊本再春荘病院地域医療連携連絡協議会—

地域医療連携室
地域連携係長
高村 由紀子

当協議会は、近隣の医療機関、訪問看護ステーション、居宅支援事業所、包括支援センター、介護施設など地域関連施設の看護職・介護職との密なる連携により、入院患者へのより良い退院支援を行うことを目的に、平成21年に立ち上げました。年に4回、情報交換しながら開催し、今年の10月で第36回の開催となりました。

3年前から年度毎にテーマを掲げています。テーマは当院から地域関連施設へ情報提供したいことや、過去のアンケート結果、毎年のトピックスから選定しています。今年度のテーマは在宅医療の推進に伴い、在宅での看取りの機会が増えていることを受け、「看取りについて」をテーマにしました。人生の終末期にある患者様が安らかな死を迎えるには、希望を最大限に取り入れた意思決定支援をどのように行っていくか。又、医療スタッフとして患者と関わる中で、病院での苦悩、在宅での苦悩などに

年度	テーマ	平均参加数
平成27年度	呼吸器疾患看護	65名
平成28年度	神経・筋疾患看護	59名
平成29年度	看取りについて	79名

表：年度別テーマ・平均参加数

ついて意見交換・情報共有しながらともに考える機会となっています。事例を通して具体的な関わり方を考えていくことで参加者から「今後に活かしていきたい」などたくさんの意見をいただきました。

今後も患者様が継続的な医療・看護を安心して受けることができるよう、地域関連施設との連携を図っていききたいと思います。当協議会におけるご意見・ご要望等ございましたら、お気軽にご連絡ください。

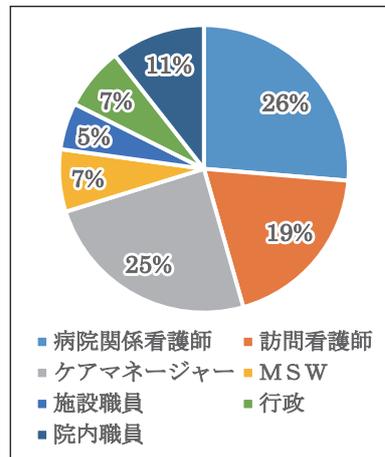


図1 第36回看看・看介連携参加者割合

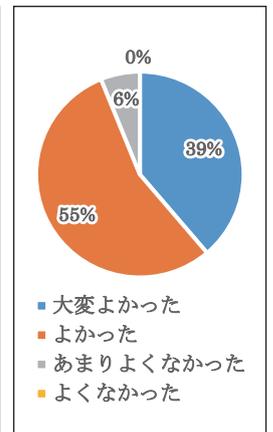


図2 第36回看看・看介連携参加者満足度

平成29年度 ファミリー参観を開催して

キャリアサポート・センター 津田 富美

活気ある職場づくりを目指し、「働く姿を家族に見(魅)せよう」をテーマに子どもたちの夏休みを利用して平成27年から、「ファミリー参観日」を開催しています。第3回となる今回は8月22日に19家族、下は2歳から14歳までの子どもたち、職員の親御さんなど総勢34名の参加がありました。院長の挨拶に始まり、病院で働く人々の紹介の講義の

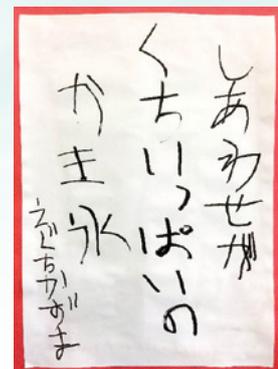
あと、自分たちのパパやママが実際に働く様子を見学しました。お楽しみとして、白衣試着の体験やスタンプラリー形式で病院の中を探検、茶話会などで楽しみました。「将来は看護師になりたい」「お母さん、すごいね」「病院が迷路みたいだった」などたくさん感想があり、家族の参加があった職員からも元気が出たとの反応が多くありました。



第45回 少年少女俳句会

主任児童指導員
猿渡 亜紀子

この会は“俳句に親しむことにより自然や四季に目を向け、多感なる少年少女のみなさんの情操教育の一助にも”と、熊本ライオンズクラブの主催で毎年開催されています。平成29年度の中学校の部(応募句数1,466句)におきまして、当院入院中の江口和馬さん(黒石原支援学校中学3年)が最優秀賞にあたる「天賞(熊日賞)」に選ばれました。選考員の方からは“『口いっぱい』と幸せな気持ちを表現したことが旨いと思います”、とのお言葉をいただきました。いつも周りを明るくしてくださる和馬さんらしい一句が選ばれ、ご本人も笑顔いっぱいで喜ばれていました(ご家族の承諾を得て掲載しました)。



新任職員紹介

管理課長 堤内 俊一



1月1日付で嬉野医療センターより管理課長として着任しました堤内です。以前より熊本再春荘病院での勤務を希望していましたので、ここで勤務出来ることを大変嬉しく思っています。しかし、前任地では、病院経営の分析と診療報酬の業務にどっぷりと浸かっていたので、今回の管理課業務に就くことには、いささかの不安がありますが、色々と勉強をしながら、管理課業務に邁進していきたいと思えます。まずは、3月の受審を控えた病院機能評価の最終段階の準備作業をやらなければいけません。副院長先生の指示の元、皆さんの協力を得ながら、作業を進めて行きたいと思えます。管理課業務は、病院の雑多な業務をしなければいけませんので、その業務調整の旗振りとして、微力ではありますが精一杯頑張りたいと思えます。宜しくお願いします。

入院係 大淵 真吾



転職してまいりました、大淵真吾と申します。奇跡的に採用をいただき10月から熊本再春荘病院で勤務させていただくこととなりました。合志市は自然もあり適度に都会で住みやすく、良い環境である当院で国立病院機構職員としてのスタートを切れることを大変うれしく思っています。

前職では福岡で2年半、東京へ転勤となり2年3ヶ月の期間、医療事務として働いておりました。受付、会計、算定、レセプト業務等、医事課としての仕事を一通り経験しました。

こちらでは医事の入院係として配属となりました。活かせる知識は活かして一日でも早く戦力として頑張る所存です。

言語聴覚士 西田 淳基



氷川町にある介護老人保健施設から来ました言語聴覚士の西田淳基です。趣味はカメラを持って色んな場所に行き、風景や植物などを写真におさめることです。

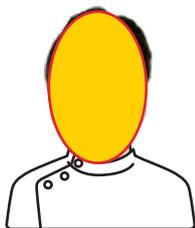
熊本再春荘病院では摂食・嚥下障害や構音障害等の疾患だけではなく、たくさんの患者様や職員の方から数多くものを学び、リハビリに活かしていきたいと思えます。

よろしくお願いします。



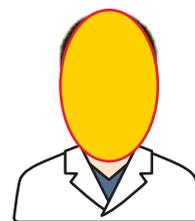
新任医師紹介

放射線科医長
中島 康也



10月から放射線科医として勤務しています。前任地は熊本赤十字病院で、主に画像診断と血管内治療をやってきました。11年ぶりの異動と業務内容の違いで、しばらく戸惑っていましたが、最近ようやく慣れてきた感じですが、未だに知らないことも多く、各方面にご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願い致します。

神経内科
村端 秀映



10月より神経内科に赴任しました平成23年卒の村端です。前任地は熊本大学医学部附属病院神経内科でした。半年間の予定ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。